

巻頭言

富士フイルム株式会社
取締役・常務執行役員
後藤 禎一



富士フイルムの医療ビジネスは、人々の健康に関わる「診断」から「治療」、「予防」の領域まで、健康の維持・回復を横断的に手掛けることのできる幅広い技術と視野を持った「トータルヘルスケアカンパニー」として、グループの持つ製品・サービス・これまで蓄積してきた技術を生かし、「人々の生活の質のさらなる向上」に取り組んでいます。

「診断」領域のビジネスの原点は、創業間もない1936年の「X線フィルム」の発売にまでさかのぼります。その後、世界で初めてX線画像のデジタル化を実現した、デジタルX線画像診断システム「FCR」をはじめ、「FUJIFILM DR」、内視鏡システム、血液診断システム、超音波画像診断システムなどの医療機器や、医用画像情報ネットワークシステム「SYNAPSE」や放射性診断薬など、「診断」は領域を次々と拡大しております。

さらに「治療」領域に対し、一層の飛躍を図るため、2008年に感染症・抗炎症などに強みを持つ創薬メーカーである富山化学工業をグループに迎え、医薬品事業に本格参入しました。

「診断」領域において、当社は、女性のがんで罹患率の第1位である乳がん検査用のデジタルX線画像診断装置（マンモグラフィ装置）として2000年にFCR5000MAを市場導入しました。乳がんは、早期発見で治療する確率が非常に高い疾患です。乳がん検査用にはさまざまな診断機器が開発されていますが、検診による死亡率低下の効果が認められている唯一の検査がマンモグラフィ検査です。当社は乳房X線診断装置に、独自の新しい技術を搭載し続けることで、高精細かつ低侵襲な検査を実現し、早期乳がんの発見で社会に貢献する事を目標に、当社のメディカルシステム事業の中でも力を入れて開発を進めてまいりました。

2008年10月に当社初のDR方式のデジタルマンモグラフィ装置である「AMULET」、2011年に「AMULET f/s」、さらに2013年に「AMULET Innovality」を販売開始しました。今回、AMULETシリーズ累計で4000台を突破したことを記念し、富士フイルム研究報告63号は、「AMULET Innovality」の特集号として発刊することいたしました。

当社のマンモグラフィ装置は、当社の強みである独自の材料合成技術、画像生成技術、画像処理技術を最高レベルで結集させた装置です。腫瘍などの病変画像の描出能を大幅に向上させたTomosynthesis機能は独自の画像技術から実現した機能です。本研究報告ではTomosynthesis機能による臨床効果と関連技術についてまとめました。

当社は、X線画像を世界で初めてデジタル化して以来、デジタルならではの技術を追求してきました。今後も、市場の変化に素早く対応し、当社が保有する製品群にAI・ICT技術を活用し、マンモグラフィ領域においても一人でも多くの女性とその方の周囲の大切な方（家族、友人、恋人）の日常の幸せを守るために継続的に新しい価値を創出し、開発し続けてまいります。